



市役所庁舎

Q

市長の「まちづくり論」

はせがわ きよし  
長谷川 清 議員



A

多くの政策を密着・関連させて  
市政を進める

**問** 市長が最も重要、深刻だと考える市の課題と解決策は。

**答** 「次世代の皆さんに魅力ある鶴ヶ島」を作り上げることが、最も重要な課題である。また、少子高齢化や生産年齢人口の減少にどのように対応するか、教育の環境や内容をいかに充実させるかなど、様々な課題がある。

**答** 人口問題の解決のために、子育て世代に転入してもらうことが重要であるため、「子育て環境、教育環境の整備」、「良好な住宅地と雇用の場の確保を含めた都市整備」に重点的に取り組む。また、しっかりと財源を確保し、多くの政策を各部署にて密着させ、大きな円として全てを関連付け、取り残すことなく次世代につなげる市政を進める。

**問** 「しあわせ共感」の仕組みと「安心のまち」のかたちは。

**答** しあわせ共感とは、お互いを認め合い、自分らしく生活できるまちを目指すものであり、市民の暮らしなど、全ての土台に安心があることが大切である。

私が聞きたかった肝心の市長の「まちづくり論」については、要領を得ない答弁であった。次回に持ち越すこととする。

◇ ◇ ◇

Q

ごみ集積所の設置と管理について

いずもびんたろう  
出雲敏太郎 議員



A

利用者による設置は現状では考えていない

**問** ごみ集積所を設置するには、利用者等の当事者意識が大事である。しかし本市では、ごみ集積所を設置できる者を主として自治会長と定めており、このことが「自治会がやってくれるから自分の家の前でなければどうでもいい」という当事者意識の欠落を招いていると考えられる。また、自治会加入率が年々減少しており、現状のシステムは限界を迎えているとも考えられる。

**問** 現在の自治会加入率は。

**答** 59・65%となっている。

**問** ごみ集積所の利用者による設置は。

**答** 自治会の班を超えた広域な調整が必要な場合があるため、



ごみ集積所

設置者を自治会長としている。

**問** まずは利用者が設置を進め、広域の調整等が必要な場合に自治会との連携や協力を行い、解決を図るのが本来の姿では。

**答** 利用者による設置では、設置後の調整が困難になるため、現状では考えていない。

**問** 外国人に対するごみ出しマナーの周知は。

**答** 外国語で作成したごみの出し方のガイドで周知を図っているほか、職員が現地に向いて直接説明するなどしている。

◎**その他の質問** 更なる部活動改革に向けて